

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月3日

【評価実施概要】

事業所番号	4271500961		
法人名	有限会社 金子		
事業所名	グループホーム 愛乃郷		
所在地	〒857-0341 長崎県北松浦郡佐々町羽須和免927 (電話) 0956-42-7010		
評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年8月23日	評価確定日	平成19年9月7日

【情報提供票より】(H19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16人	常勤	15人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	5名	要介護2	5名		
要介護3	7名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.2歳	最低	74歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	はらだ医院、力竹医院、ふくだ歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

愛の郷の朝は、近くのお寺の鐘の音と共に静かに明けてゆく。入居者にとっては朝6時を告げる生活音でもある。職員の明るさと優しさは入居者の表情・感情表現の豊かさに象徴されている。入居者・職員の共同生活の中で培われた信頼関係と入居者同士が持つ役割との関係性は、家族的な交わりに近いものが感じられ、ほのぼのとした心地よい空気に触れることの出来るホームである。今後は、地域にもホームの良風を伝え広めて、地域に密着したホーム作りを展開されることが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員の夜勤時などの不安解消に繋がる、入居者一人ひとりに想定される緊急時対応手順・知識がマニュアル化されている。入居者の安全・徘徊対応の1・2階通用口の施錠は、職員の見守りでの対応と工夫をしながら、入居者との関係作りで解消されている。観察・会話を大事にされた取り組みで入居者に笑顔、表情が出るようになり、ケアの質の向上に反映されている。今後は、地域との関わりが大きな課題で、職員もそのことは十分認識されており、訪問調査時には取り組みの意欲を伝えてもらうことが出来た。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員一人ひとりが取り組み、それぞれが持ち寄って2ユニット分を一つにまとめ上げ総評にされている。なかでも、一人の職員は日頃より「その人らしさ」に疑問を持ち、追求し続けておられ、訪問調査のヒアリング時にも問題提起され、その場に居た職員及び管理者で建設的な意見交換がなされた。正解はないにしてもそれぞれ得るものがあつたように思われ、これを機に今後活かしていくことを期待したい。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>3月に開催され、次回の運営推進会議開催の日程調整中である。1回目ということもあり会則の提示と了承、グループホームの活動内容・役割などが報告され、質疑応答の時間を設けられている。議題作りや開催の定期的の延長など早くも難航している。運営推進会議の指針や目的を再確認し、会員様に理解・協力いただける体制作り着手されることを希望する。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>入居者の生活の様子や健康状態の情報提供は、家族の面会時や定期的及び随時の報告で安心に繋がる取り組みがされている。又、家族の意見などは口頭で直接伝えてもらうこともあり、職員間で情報の共有に努め、真摯に対応されている。更に、職員は家族の伝えにくい心情も理解しており、入居者・家族とのこれまでの関わり・観察を通した中での気づきを気配り・配慮に反映されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>買い物、散歩、馴染みの関係の利用など入居者と地域の関係・継続の支援はされているが、事業所としての地域との連携・関係作りには希薄な点があり、職員もそのことは認識しておられ、積極的取り組みの意向を表明されている。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営者の基本姿勢を「親切・敬愛・向上」とし、理念は開設当初からのもので、「ありがとう、いつも笑顔で、のんびりと、さわやかに、とりくもう」と掲げている。グループホーム名の頭5文字にちなんだ文言に事業所としての姿勢を目指されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員で「入居者にとってのその人らしさ」について疑問を持たれ、どういことがその人らしいのか問題意識を持って常に向き合われている。愛の郷の頭文字言葉を理念に謳われているが、無意識のうちに実践、共有されている。特に、心にゆとりがあるときは自然体で実践されているのが窺える。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事外出や買い物、馴染みの理美容院の利用など、入居者個人の地域における継続的係わり支援はされているが、事業所として地域との交わり、関係作り不足を感じられている。		事業所として、ご近所や地域の関係要所への【報告・連絡・相談】を絶やさず、地域に対し事業所のありのままの姿・役割を理解してもらうための働きかけを諦めずに今後も続けられることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善項目は経営者・職員で話し合わせ、入居者別の緊急対応シートの作成や入居者の状態に応じた職員の配置などサービスの向上・安心に繋がる内部的な改善の取り組みはされているが、初回からの課題である地域とのかかわり支援に対する取り組みが希薄である。		改善計画シートを作成され、期間・目標・評価など意識付けに繋がる取り組みが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域推進会議の開催はまだ一回ではあるが、外部評価の結果やホームの運営・活動内容などの報告、活発な質疑応答などあり、意義・手応えを感じられている。現在、次回開催に向け日程調整中である。		

グループホーム 愛乃郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは、逐一の相談・報告などで連携関係は出来ているが、今のところ地域包括支援センターや保健所、居宅介護支援事業所など範疇外になっている。		地域包括支援センターや保健所、居宅支援事業所及び保険者が養成したボランティア事業など範疇に収められ、活用に繋がる連携体制作りが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時及び定期的に入居者の暮らしぶりや健康状態などの報告はされている。又、変化時の報告も随時なされており、家族からも安心・信頼を得られている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から直接伝えられることもあるが、家族の伝えにくい心情も察して、入居時からこれまでの関わりの中で様子・観察を通して気づいたことは、職員側の観察・気配りを駆使しながら運営に反映し、改善・向上に繋がられている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常日頃より、法人内隣接事業所の職員と入居者の顔馴染みの関係作りは挨拶などを通して意識的に取り組まれている。又、職員の離職率の低下にも努められている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤続2年以上の職員には管理者研修受講の機会作りをされている。又、伝達講習の取り組みにも力を入れられている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会への参画はもちろんのこと、他の地区の参加会員になるなど、広範囲にネットワーク作りをされている。勉強会、相談、訪問など双方向の関わりが出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	敷地内隣接のディサービス利用や1週間の体験入所などを通して、馴染みの環境や顔見知りの関係作りと納得・安心の取り組みをされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	入居者と職員は思いを共有され、間合いやテンポも入居者を意識した対応で、入居者一人ひとりの空気を大事に支援されている。又、入居者間での関わり構成も取り入れ、共に支えあう関係作りも出来ている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	センター方式を取り入れ、入居者一人ひとりの思いや意向の把握に努められている。又、観察と入居者、家族、職員のコミュニケーションを通して可能な限り、本人本位の支援を目指されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	入居者の出来ることに着目して、潜在性・生活歴などを考慮してプランの作成に繋がられている。又、年に1回入居者担当職員を変えることで、プランの目標に対する照準点検とプランの画一化防止に努められている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	入居者一人ひとりの日々の状態把握と観察を下に、職員間での情報の共有とミーティングを通して、入居者の現状に即したプラン作成に反映される定期的、又は随時の見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者に対しては医療機関との連携で早期退院に向けた取り組みや寺参り・墓参り・法事などの特別外出の支援など、多機能性を活かした支援をされている。又、地域に関しては、今のところ居宅支援事業所機能を活かした取り組みに努められている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医と協力医療関係者との連携・連絡体制作りもされており、入居者の状態に応じた最適の受診支援に努められている。又、家族とも随時の連絡・連携を図られている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員も可能な限り入居者との継続した関わりを望まれており、ケアの質の向上も目指されている。現段階では、入居者・家族への説明等も口頭でされており、安心に繋がる具体的な方針の提示がされていない。		医療機関や家族の意向、職員体制等を考慮しながら重度化や終末期に関する基本的な方針を文書化して終末期に対する方針を明確にし、職員や家族と考え方を共有することが期待される。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者との会話の中で「否定・命令」の言葉は聞かれず、尊厳に留意した対応を心がけられている。又、経営者は給料に「入居者様とご家族様の汗の結晶とおかげさま」の言葉を添えられている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活パターンの中に入居者一人ひとりのゆとりの時間保持があり、共同作業と個人的な係わりが自然な形で展開されている。		

グループホーム 愛乃郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状態・生活歴に応じた和・洋のテーブル配置で、継続性と可能な限りの自立摂取の支援を見守りを中心に取り組まれている。準備や後片付けなども入居者の自発性や依頼誘導で職員と協同、話題の共有に繋がられている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、時間帯など決められた中での自由選択支援をされているが、希望の表出があったときや夏場などの季節に柔軟な対応の準備不足である。		職員体制等も関係して毎日の入浴が難しい面もあるが、時季による対応や入居者の健康・衛生面を考慮しながら、出来る限り毎日の入浴を基本とした支援が望まれる
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の流れの中に、役割的・習慣的ではあるが入居者の能力、興味、潜在性など発揮してもらえるよう場面作りや環境づくりで支援されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩、行事時の外出の機会以外にも玄関から一歩外へ出るだけで、敷地内の庭先にはベンチや干し場がある。場所的に高台にあるので遠望が効き、馴染みの風景を目にしたり外気に触れる機会にもなり、気分転換や日光浴などを適宜取り入れている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はされていない。職員の目配り、情報の共有、入居者の居場所の把握など細心の注意を払い、安全への配慮がなされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火・救急に関しては、消防署の指導・訓練などを通して対策が採られており、近所への協力依頼・体制作りも出来ている。しかし、風水害など自然災害についての認識が希薄で範疇外である。		緊急避難場所の確認や関係機関の連絡先、災害時の備蓄など非常災害に備えた取り決め・フローチャート作りなどの取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの状態や体調を把握し、量や調理法など配慮した提供であるが、献立表からは栄養バランスの偏りなどが感じられる。		管理栄養士や保健師などの専門的視点から、献立表の点検・指導を定期的に仰がれ、食事面での健康管理も望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は共同生活と家庭的を融合させた環境づくりで、五感への刺激にも配慮されており、集いや独り居が自由に選べ、過ごしやすい環境づくりの支援がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居暦に伴い落ち着ける場所となっており、入居者一人ひとりの個性・状態が反映された居室となっている。今後も新旧を問わず、入居者が居心地よく過ごせる居室の支援を目指されている。		